

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3570200919		
法人名	医療法人 和同会		
事業所名	宇部西グループホーム		
所在地	山口県宇部市大字際波字東河田 287番地の1		
自己評価作成日	令和 3 年 7 月 25 日	評価結果市町受理日	令和3年12月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和 3 年 8 月 26 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

宇部西リハビリテーション病院の併設事業所の為、入居者の状態変化に関して相談や治療など、状況に合わせた対応を実施できる体制が整っている。医師や看護師、栄養士、療法士などと連携を図り、一人ひとりに状態に合わせたサービスを提供する為に、情報を共有しサービス内容を検討し対応している。  
 新型コロナウイルスの関係で外出や面会が難しい為、活動や日頃の様子をカメラで撮影し、グループホームだよりに掲載、ここでの様子を家族へ報告している。撮影したら保存して新聞以外の事で使用する機会も準備している。年間行事・活動計画を立て、季節の合わせたお楽しみ会や調理・園芸・制作活動等を実施している。定期的な実施していた勉強会も感染防止の為中止しているが、自己学習と自己研鑽を勧めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

コロナ禍で外出が困難な中、年間を通して園芸活動を行っておられ、陽に当たり外気に触れ身体を動かされ、野菜や花を植えて育て収穫され、季節が感じられるように支援されています。毎月、お楽しみ会やおやつづくり、夏祭りなどの行事や七夕などの創作活動を計画され、利用者が楽しく、安心して生活出来ると共に、利用者一人ひとりの楽しみごとや活動できる場面を多くつくり、張合いのある日々が過ごせるように支援されています。利用者の生活の様子を分かりやすく伝えるために写真を撮られ、事業所だよりに掲載されて、家族に送っておられます。日常生活の中での利用者との関わりを大切にされ、利用者の思いの把握に努められ、不安な気持ちを訴えられる利用者の家族と相談して外泊されたり、おやつを希望される利用者定期的に家族に持参してもらうなど、利用者一人ひとりの思いに添った支援に努めておられます。事業所では、集合しての内部研修開催が困難な状況にあっても、資料を閲覧することやインターネットでの自己学習を勧めておられ、検討事項があれば一緒に考えるなどの、研修体制を確立されています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	病院の基本理念を元に、事業所理念を作成しステーション内や各ユニットに掲載している。会議など再認識する機会を設け、全職員が同じ方に向かうよう取り組んでいる。	法人の基本理念を基に、地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示し、朝礼時に唱和している。4月に年度目標を作成し、毎月の会議で理念と目標について話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の自次会に加入しており、地域のお祭りや敬老会、病院主催の行事等に声を掛けて頂き交流する機会を設けているが、入居者の状態やスタッフの確保が難しく、現在は、新型コロナウイルス感染拡大防止にて交流は困難。	自治会に加入している。自治会の広報が届いて、地域の状況は把握しているが、コロナ禍のため参加できていない。ボランティアの受け入れや法人のイベントも中止となり、地域の人との交流が難しいため、事業所内行事等の充実に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	病院や同敷地内の施設と共同し、定期的な活動や学習会、研修会を実施。認知症に対するイベントも行われている。新型コロナウイルス感染拡大防止にて学習会や研修等、中止となっている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価の意義を伝え、全職員に書類を確認してもらい可能な範囲で意見をもらっている。外部評価の書類も確認してもらい、改善出来るよう検討し、業務の見直しの機会として取り組んでいる。	管理者が評価の意義について説明し、全職員に評価のための書類を配布して各自に記入してもらい、管理者がまとめている。職員は自己評価を日々の業務の見直しと捉えている。まとめたものは、職員が閲覧出来るようにしている。前回の評価を受けて目標達成計画を立て、緊急時の対応等を各自が学んでいるなど、できることから改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催、市職員、民生委員、入居者、家族、職員が参加し事業所の現状や取り組みについて伝達、話し合っている。家族にも毎回参加を求めている。今年に入り新型コロナウイルス感染拡大防止にて会議を中止、文章での情報提供とした。	会議は、年6回文書による情報提供で開催している。事業所の現状、事業所だより、取り組みに対しての現状報告、師長意見を報告している。メンバーからの意見はない。職員には資料を閲覧している。	・地域メンバーの拡大

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて、サービスの内容や取り組みについて伝え、意見交換や相談等、協力関係を築けるよう努めている。疑問点などあれば相談させてもらっているが、回答が不十分なことがある。	市担当者とは、運営推進会議の他、FAXやメール、電話で聞いたり、相談して助言を得たり、情報交換をして協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター(同敷地内)職員とは、直接出向いて相談や情報交換をしている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	病院内の研修会や外部の研修に参加するよう努め、マニュアルや研修会の資料はいつでも閲覧できるようにしてある。毎月病院内の身体拘束ゼロ推進委員会に参加し身体拘束をしないケアについて理解を深めている。時間帯や状況により玄関の施錠を行っている。	外部研修や法人研修に参加し、職員は身体拘束や弊害について学び、身体拘束のないケアに取り組んでいる。毎月、法人の身体拘束ゼロ推進委員会に参加し、事例検討なども行い、内容をグループホーム会議で伝達し、資料を閲覧している。玄関の施錠は見守りが出来ないときに限り行い、外出したい利用者があれば、職員と一緒に出かけている。スピーチロックは管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新型コロナウイルス感染拡大防止にて研修への参加が難しくなっている。病院内の虐待防止委員会に参加し、資料等で虐待についての理解を深めるよう伝え、常時、虐待に繋がっていないか意識している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、必要であれば相談できる体制をとっており、活用に結びつけるようにする。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要時、家族へ電話や来所を求め説明し不安や疑問の解消に努め、理解や承諾を頂いている。分かりやすく説明すると共に、伝わっているかを確認するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や意見箱の設置、家族と定期的に連絡を取り思いを伝えてもらえるような関係作りに努めている。意見や要望があれば、全職員で情報を共有すると共に検討するようにしている。相談、苦情の窓口の説明も行っている。	契約時に苦情相談窓口や受付体制、第三者委員を明示し、本人や家族に説明している運営推進会議時や面会時、介護計画作成時、電話、月1回の事業所だより(利用者の様子を写真で掲載しわかりやすくしている)送付地頭で、家族からの意見や要望を聞いている。家族からの要望や意見は、連絡ノートに記録し、職員間で共有している。家族から面会の要望があり、ガラス越しで電話を使って、面会できるように対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、事業所内での会議を行い意見や要望、提案など聞き検討する機会を設けている。必要時には、アンケートや個別での面談を行っており、話しやすい雰囲気作りにも努めている。	管理者は、勉強会やグループホーム会議、必要に応じて個別面談、委員会活動、担当業務などで職員の意見や提案を聞く機会を設けている。連絡ノートに介護した内容を具体的に記録に残すこと、家族に利用者の様子をわかりやすく伝えるために事業所だよりに写真を撮って掲載すること、園芸活動や毎月の行事が利用者を楽しめるものにする工夫等、職員の意見や提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の就業状況に合わせて、無理のない勤務体制に配慮している。意見を言う機会は設けられているが、給与や職場環境に反映されていない。(個々に合わせた勤務場所が必要との意見有)		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が偏りなく研修に参加できるよう配慮し、希望の研修には参加できるようにしている。新型コロナウイルス感染拡大防止にて研修への参加が難しい。学研や資料での自己学習を勧め、検討事項があれば一緒に考えている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供し、介護支援専門員研修、認知症介護実践者研修を受講している。法人研修は、感染症、認知症、排泄ケア高齢者虐待防止等に参加し、受講者は資料を閲覧している。集合しての内部研修開催が困難な状況にあっても、資料を閲覧することや、身体拘束、根拠に基づいた介護行為と介護課題、認知症介護、薬の知識と服薬介助等インターネットで自己学習し、検討事項があれば一緒に考えるなどの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等で交流する機会を持ち、他施設との違いや共感、学びなど参考にしサービスの質の向上に取り組むようにしている。新型コロナウイルス感染拡大防止にて、交流する機会が取れなくなっている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の段階で本人や家族からアセスメントをとり、不安や要望を見出し、安心して生活できるようにする。その為に、信頼関係を築けるような働きかけに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より家族と十分話す機会を持つようにし、不安や要望の把握に努める。入居後、定期的に生活状況を伝え、いつでも相談してもらえる関係作りを目指している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援がグループホームであるかを見極め、本人に対して必要なサービスは何なのかをケアマネージャーや家族と検討している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、共同生活の場である事を理解した上で、できる事はしてもらい、生活の協力者として時には冗談を言い合いながら安心して生活でき、入居者同士も良い関係が保てるよう支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対して、日頃の様子を伝え要望も大切にすると共に、負担にならない範囲で協力を求め、一緒に支援していく姿勢でよりよい関係づくりに努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染拡大防止にて、面会や外出が難しくなっている。馴染みの人が連絡していることはほとんどない。あれば、家族に確認し対応している。	家族の面会がある他、電話の取次ぎを支援している。コロナウイルス感染防止対策で面会が禁止になっていたが、家族の要望があり、ガラス越しで電話を使っての面会を支援している。美容院の受け入れもしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との関係性を日々観察し、職員同士情報を共有、必要時には職員が関わり良好な関係が保てるよう配慮している。活動や行事なども全員が参加できるよう促している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後、ご家族の負担にならないよう連絡を取り、必要であれば相談や支援に努めている。いつでも相談してもらえるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望、不安などを関わりの中から導き出している。必要時、担当職員を中心に職員全員で対応方法を検討し遂行している。	入居時のフェースシートやアセスメント表を活用し、生活歴や趣味、暮らし方の希望を本人や家族から聞いている。日々の生活の中で、利用者一人ひとりとの関わりを大切にし、利用者の表情や会話、行動、不安などをケース記録に記載して、思いや意向の把握に努めている。不安な気持ちを訴えている利用者の家族に相談して外泊をする、おやつを希望する利用者の家族に定期的におやつを持参してもらうなど、一人ひとりに添った対応に努めている。困難な場合は、職員間で話し合い本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネなど、情報を収集し全職員で共有している。定期的にフェースシートの見直しを行い、サービスの内容について、いつでも確認できるよう保管し、把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の情報に基づき、有する能力を把握し対応している。日々の様子を記録し現状の心身状態の把握と全職員での情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に状態を説明した上で要望を聞き、担当職員を中心に情報収集及びケアプランの評価や見直しを行っている。必要時、主治医や栄養士などに相談しアドバイスを貰っている。	本人や家族の思いや意向を聞き、かかりつけ医や看護師、理学療法士、言語聴覚士等の意見を参考にして、利用者を担当する職員と計画作成担当者が中心となって月1回のカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。月1回、モニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている。利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度検討して、見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや連絡ノートなどを活用し、全職員で情報を共有している。関わりの中でのいつもと違う小さな変化や気づきなど、記録に残し伝達するよう働き掛けている。必要時、サービスの見直しや対応方法を変更している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の入居者の状況に合わせてその時その場での支援、対応を行うよう努めている。必要時、家族に連絡、相談し支援の変更を説明している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとり生活してきた環境が違う事を理解し、地域資源が活用できるよう取り組んでいく。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	宇部西リハビリテーション病院にて対応し、定期的に受診を行っている。緊急時等、いつでも相談できる体制を作っている。専門科の受診については、主治医へ相談後、家族が希望する医療機関を受診できるよう連携を取りながら支援している。	本人や家族の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の定期受診を支援している。訪問看護師の来訪が月1回ある。希望者は訪問歯科診療を受けている。他科受診は家族の協力を得て、かかりつけ医の紹介状を持参して受診している。受診結果は、紹介状の返答を見て電話で家族に伝え、職員とは連絡ノートに記入して共有している。緊急時は協力医療機関と連携して適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護の来所があり、アドバイスを受けいている。(新型コロナウイルス感染拡大防止にて、来所を控えていた時期があったが現在は再開している)必要時、主治医や訪問看護と連携を図り安心して生活できるよう健康管理の支援を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、病院の地域連携室と連携し情報収集を行っている。必要であれば病院を訪問し状態の確認を行い、早い段階で方向性を出せるように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の役割を理解した上で、家族の意向を考慮し、主治医へ相談、状態把握と方向性を共有し、より良い支援ができるよう取り組んでいる。地域の関係者との連携は控えている。	契約時に事業所で出来る対応について、本人や家族に説明している。「重度化した場合における対応に係る指針」があり、実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を踏まえ、かかりつけ医と相談して移設も含めて話し合い、方針を決めて共有し、チームで支援している。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	毎月リスクマネジメント会議に参加し、リスク報告やヒヤリハット報告、事例検討会などに参加し、全職員に伝達している。病院内の研修会や学研ナーシングの活用など、知識を得ると共に実践できるよう促している。新型コロナウイルス感染拡大防止にて、研修参加や勉強会の実施が難しくなっている。	発生した場合は、その場にいた職員がインシデント・アクシデントレポートに概要や処置、対応を記録し、回覧している。毎月のリスクマネジメント会議での助言を基に、月1回の会議で再度話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。コロナ禍で定期的な訓練は行っていないが、法人の研修やインターネットでの学習、事故防止マニュアル等を活用して、自己学習に取り組んでいる。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や水害時の避難訓練を、入居者含めて実施している。宇部西リハビリテーション病院が災害時の避難場所となっており、地域との協力体制を築くよう取り組んでいる。	同一施設内にある法人施設合同で年2回、昼夜火災を想定した訓練を行っている。避難訓練、避難経路の確認、通報訓練、消火器の使い方を利用者も参加して実施している。事業所は病院の防災センターに直結し、法人内での協力体制は整っている。事業所内でも年1回、水害を想定した避難訓練を利用者と一緒に行っている。災害時の非常用食品は法人で備蓄している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その場に応じた言葉遣いを考慮している。尊重とプライバシーを確保しながらも、親しみを感じてもらえるよう努めている。待遇委員会による啓発や研修(学研や資料の閲覧)などもある。	職員は法人内の待遇委員会やインターネットでの学習(身だしなみマニュアル、挨拶や敬語、適切な言葉を使うなど)で学び、年2回のマナー評価を実施し、プライバシーや人格の尊重、思いやりや優しい言葉かけ、笑顔での対応に努めている。個人情報の取扱いに留意し守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で思いや希望を話せるような雰囲気作りを行っている。動きや表情などのサインやいくつかの選択肢を決め選んでもらう等、本人の意思の確認を大切にしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所都合ですすんでいることが多いが、個々の生活スタイルやペースを大切に、自由に生活してもらおうと共に、できるだけ希望に添えるよう努め支援する。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好むものを着てもらおうようにしている。困難な方には、季節に応じた物を職員が準備している。化粧品の購入や美容院など、家族と相談しながら支援し、出張美容院を依頼し利用してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、病院の厨房から提供の為、調理などは行っていない。行事や活動の中で調理活動(おやつ作りなど)を行い、出来ることの維持を図っている。	三食とも、法人病院の厨房からの配食を利用している。2カ月毎に実施する給食委員会の食事アンケートで利用者の好みや要望を伝えている。1ヶ月の内、各2～5日、パン・刺身・麺の日を定めている。利用者の状態、好みに合わせて形態や食品交換を行い利用者個々に合った食事を提供している。事業所の菜園で収穫した旬の野菜(じゃがいも、さつまいも、トマト、キュウリ、白なす等)や果物(いちご、すいか)を利用することもある。利用者は、野菜切る、テーブル拭き、箸を配る、下膳、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。おやつづくり(いちごを使ったパンケーキ、さつまいも芋の蒸しパン、白玉あんみつ、ぜんざい、三色だんごなど)、季節の行事食(おせち、節句、七夕、そうめん、敬老の日、クリスマスなど)、菜園で収穫したものでじゃがバター、漬物、すいかジュースなどをつくり、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立により栄養のバランスは取れている。様々な食事形態を準備し、個々の状態に応じて提供している。必要時、主治医や栄養士に相談し対応している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に口腔ケアを実施し、自分で行うのが難しい方には職員が対応している。必要時、訪問歯科や言語聴覚士へ相談をしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中は出来る限りトイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表を活用し、本人の排泄パターンの把握、定期的なトイレ誘導を行っている。入居者の行動やサインに注意し配慮して声掛け、対応を行っている。	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者のサインに注意して言葉かけを行い、短時間で対応することに心がけ、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の把握、食後のトイレ誘導を行い習慣化するよう働きかけている。細目な水分補給やオリゴ糖の活用、乳製品などを使用して自然排便を促している。必要時、主治医の指示薬を使用している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、週3回実施している。本人の希望があればいつでも入浴できる体制を作っている。入居者の状態や希望にあわせて、入浴できるよう配慮している。気持ちが向かない場合や状態により、中止したりシャワー浴や清拭を行っている。	入浴は週3回としているが、水曜日以外は希望すれば毎日入浴出来る。時間は9時から11時、13時30分から14時30分の間で、入浴時間や順番、湯加減等、利用者の好みに合わせて、ゆっくり入浴出来るように支援している。入浴したくない人には、無理強いしないで、時間の変更、職員の交代、言葉かけなどに工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、シャワー浴、清拭、足浴等個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や居室の明るさ、静かな環境を準備し夜間の安眠に繋げるよう配慮している。一日を通して休息や活動等、個々に合わせて支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表の作成、内服薬マニュアルの手順に添って服薬管理を行なっている。目的や副作用などについて、いつでも確認できるようにしている。薬の変更時等、情報を伝達し状態の観察にて内容を検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的に行事や活動を計画し実施している。その中で、役割を持って出来る事を行ってもらっている。強制や負担にならないよう配慮し、楽しむ事や満足感が得られるよう支援している。	居室の清掃(掃除機をかける)、布団を敷く、カーテンの開閉、ゴミ捨て、夕刊取り、タオルや洗濯物を居室にしまう、入浴の準備、テーブル拭き、台拭き、食器洗い、縫い物、雑巾を縫う、菜園の水やり、草取り、野菜の収穫、歌を歌う、テレビやDVD視聴、日記を付ける、新聞や本を読む、ぬり絵、折り紙、貼り絵、習字、カルタ、トランプ、風船遊び、歩行練習、体操(足、腕)、連想ゲーム、漢字・数字合わせ、しりとり、お手玉、壁画づくり、年間を通して園芸活動を行い、野菜や花の成長、収穫の楽しみや喜びを得る、毎月、お楽しみ会や夏祭り、おやつづくり、敬老会などの行事や七夕の集いに伴う創作活動などを計画するなど、利用者が少しでも安心して生活できると共に、利用者一人ひとりの楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張合いのある日が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的な外出する機会を準備したり、本人から希望があれば家族の協力のもと、買い物等の支援を行っていたが、現在は新型コロナウイルス感染拡大防止にて外出が困難となっている。	ベランダでの外気浴や法人敷地内の散歩に出かけるように支援している。コロナ禍で外出が困難な中、年間を通して園芸活動を行い、利用者は日光にあたり外気に触れ、土づくりや種まき(花、野菜、果物等)、草取り、水まき、収穫などに関わることで体を動かし、季節が感じられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で管理している。少額ではあるが事業所でも管理しており、希望時にはいつでも使用出来るようにしている。家族の同意の元、所持している方もいる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、対応するようにしている。(その際、必ず家族の確認をしている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面は、入居者と一緒に季節が感じられるものを作成し掲示している。玄関や共有スペースには、季節の花などを飾っている。ベランダの畑(花壇)には、野菜や花を入居者と植え、成長や季節を感じてもらえるよう支援している。	リビングは明るく広々としており、テーブルや椅子、ソファが配置してある。利用者はそれぞれの場所で過ごしている。広いベランダには菜園があり、季節の野菜や果物が植えてあり、草取り、収穫などを日々楽しめるように工夫している。壁面には利用者と一緒に作成した作品が飾っており、季節が感じられる。温度、湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間でも好きな所で過ごしてもらえるように、ソファや椅子を準備している。ユニット間も自由に行き来出来るようになって		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた道具、日用品などを持参してもらっている。入居者本人が安心し、居心地よく生活できる環境作りに取り組んでいる。	テレビやタンス、衣装ケース、机、椅子、時計、仏壇、鏡、飾り棚など、本人が使い慣れたものや好みのものを持ち込み、本人や家族の写真、色紙、カレンダー、ぬり絵、人形等を飾り、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事や能力に合わせて、継続して行ってもらうように勧めている。役割や日課にしていく為、職員も関わり、能力の維持、自立への支援を行っている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 宇部西グループホーム

作成日: 令和 3 年 12 月 7 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、大人数で行う事が難しく少人数で短時間で実施するように計画立案したが、実施までに至る事ができなかった。状況に合わせて実施できるように努める。	応急手当や初期対応について、勉強会の計画立案、実施していく。実践力を身に付けるために定期的に行う。感染防止に留意する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践力を身に付けるための定期的な勉強会の計画と実施。</li> <li>応急手当や初期対応について、自ら学び自己研鑽。</li> <li>担当は全スタッフで持ち回りとする。</li> </ul>	1年
2	5	新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、6回の内5回を中止し書面での情報提供となった。感染拡大防止の観点から少人数で短時間での開催としている。参加メンバーについては検討が必要。	運営推進会議に参加してもらえるように、家族や自治会の方に依頼は継続していく。新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、短時間で出来るようにまとめておく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会について、家族や自治会の方などに会議の説明と参加を依頼する。</li> <li>新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意し開催する。</li> </ul>	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。